

社員が発想し自由に拡大

「業界の現状と自社の取り
組みは。」

「求める人材は。」

「廃棄物リサイクルや廃棄物の収集運搬、解体などの事業を行っている。産業廃棄物は近年、産業資源循環物として捉えられるようになってきており、顧客が事業者を選ぶ時代だ。この会社に来て24年目になるが、顧客に信頼される企業づくりを第一に掲げてきた。CSR（企業の社会的責任）活動にも長年力を入れていく。ソリユージュン事業推進部も立ち上げ、ポリ塩化ビフェニール（PCB）の適正処理をお手伝いする事業も始めた。東日本大震災の教訓から、食料や寝具の備蓄庫を建て、ガソリンと軽油の貯蔵タンクを設置した。災害発生時は地域の手助けができるような体制を整えて



「資格を取得した場合の報

き出す取り組みは。」

「資力を取得した場合の報

き出す取り組みは。」

私と新聞

幅広い顧客の動向に注目

「山形新聞や経済紙を毎日読んでいます。出張の時は『やましんe聞』をチェックしている」と話す鈴木隆社長。最も目を通すのは経済面で、建設業からサービス業まで多岐にわたる顧客の動向を注目している。

山形新聞は地元を知るためには欠かせないツールだとし「他社の社会貢献活動も興味深く見ている」。関心があるトピックの一つは都市開

＝毎週金曜日に掲載します

奨励制度や大型車両や重機の社内検定制度を設けている。だ

「能力は経験の域を出す」という言葉を常に大切にしている。何事にもひるまず経験することが自分の能力になり、それを応用することでまた違う経験ができると考えており、社員と一緒に実践してい

★鈴木 隆氏（すずき・たかし） 東京理工専門学校卒。京業興業取締役、柏市廃棄物処理業協業組合代表理事を経て1995年にクリーンシステム社長に就任。全国木材資源リサイクル協会連合会理事長を5年間務め、現在は北日本木材資源リサイクル協会代表理事、山形再生骨材協同組合理事長、県産業廃棄物協会専務理事、日本PCB全量廃棄促進協会副会長など。東京都出身。

★クリーンシステム 1978（昭和53）年、山形建物解体工務店として設立し、92年に現在の社名に変更。産業廃棄物中間処理業、建物解体工事業を手掛ける。本県をはじめ9県2市から優良産業廃棄物業者の認定を受けている。今年、南陽市の宇佐美製材所と県南チップを完全子会社化した。資本金1億円。従業員数は94人。千葉県柏市に関東支店を構える。本社所在地は山形市飯塚町中河原1629の5。

週刊 経済ワード

【プラットフォーム】 検索やインターネット通販、会員制交流サイト（SNS）などにより、利用者さまさまざまなサービスの基盤（プラット

フォーム）を提供する企業。頭文字を取り「GAF4」と呼ばれる米IT4社（グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン・コム）が代表的な存在だ。世界で膨大な個人データを収集し、巨額の利益を上げている。